

かもまるくん
ですっ。



いよいよ師走に入り、あられやみぞれも降るようになって日に日に寒さが増えています。皆さんは風邪などひかずに元気でしょか。やすらぎ加賀教室では今年度第3回の事例検討会を終え、またフレンドシップの学生さん達の活動も進んでいます。

SNSで知り合ったことで大変な事になってしまった事件が報道されていますが、近くの学校でも気になるケースがあることが耳に入ります。学校関係者は、保護者と共にもっと生徒の環境を把握し、未然防止に努めなければならないと、強く思っています。



北陸新幹線の工事車両越しに望む白山

土田先生（心理カウンセラー）の相談日

12月15日、1月12日・19日

2月9日、3月2日 金曜日

時間：9:30～11:30

場所：やすらぎ加賀教室



※相談ご希望の方は予約をお願いします。

相談状況(12月は8日現在の集計)

	来室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
10月	6	4	3	13	1
11月	2	21	1	24	1
12月	1	7	0	8	1

第3回 事例検討会から

12月1日(金) 15:30～16:50 加賀市青少年育成センター



第3回検討会は、講師に金沢大学の原田克巳准教授、県教員総合研修センターの高野真一指導主事を迎え、加賀市内の小中高・特別支援学校、関係機関等から20名の参加を頂き開催されました。今回は、欠席は多くはないが、SNSでのやり取りから抜け出せずに辛いと訴えきた生徒の事例でしたが、本人の意欲的でない学校での様子や家族との関係などについて、状況をより理解し適切な指導に生かせるよう、皆さんから多くの発言をもらいました。

支援のアイデアについては、

- 学校側の保護者と一緒に考えてゆく姿勢を伝え、両親に本人の現状をきちんと理解してもらう。普段から母親との関係を作ってゆき、指導に巻き込んでゆくと良い。
- 本人の困り感、頑張りを理解し、承認欲求を満たしてあげる。
- 本人の10年後(将来)を考えてもらい、そのために今どうすれば良いか、何ができるかを一緒に考えてゆく。
- 他の教員の協力をもらい、一人で抱え込まないように。
- 保護者との話し合いの時に、今持っている沢山の情報をテーブルの上のせてゆくとよい
- 本人がやりがいを感じられる手立てを考えるとよい

等々、お二人の講師からの助言も含め、多くのアイデアが出されました。

参加された皆さん、どうもありがとうございました。

最近の教室では・・・



- ・コンパクトな卓球台を出しました、通室生とのお手合わせに期待！
- ・株分けしたポトスが旺盛に茂っています。そして、シャコバサボテンのクリスマスカクタスが、いよいよ花を咲かせました！

加賀フレンドシップ

今年も、金沢大学原田ゼミの学生6名が、市内小中高校とのぞみ教室で、児童生徒達の支援のお手伝いに来てくれました。10月25日に初顔合わせがあり、来年2月にかけて、約10回それぞれの学校に通ってくれます。



一緒に学習したり、調理実習したりとなかなか盛り沢山の日程ですが、どの学生も積極的に児童生徒との関係づくりに取り組んでいます。年齢が近い学生とは、話題も多く会話がはずむことが大いに期待されます。

アッキーのつぎやき

やすらぎ加賀教室心理カウンセラー 土田晶子

臨床心理学の3大源流の一人であるアルフレッド・アドラーの言葉の中に

「遺伝や育った環境は、単なる『材料』でしかない。その材料を使って住みにくい家を建てるか、住みやすい家を建てるかは、あなた自身が決めれば良い」というのがあります。つまり同じ材料（遺伝や環境）でも、同じ家（人生）が建つとは限りません。どのように材料（遺伝や環境）を使うかという自由を私たちは持っている、という厳しくて深い言葉です。

人は、とかく上手くいかないことを、誰かのせいにしてたり、環境や自分の性格のせいにしてたりしがちですが、それは前に進まないことを自分で決定しているということではないでしょうか。1年近く出社できないある若者が「僕は、なかなか物事を決められない性格で出社出来ないでいます」と言った時、私は彼の境遇に共感しながらも「休む決定は自分がしているんですね」といって、彼はしばらく考えて「そうか。嫌なことは、自分の都合の良いように性格のせいにしてたのですね」と言い、次からは、性格のせいにはしなくなり、自分自身と少し向き合えるようになったように思います。誰でも変われるチャンスはあるのです。

